

はてな？ スコア

医薬品のネーミング

薬のねらいや働きを表現

その薬、
どうしてその名前？

めざす効果にちなんで

- トメルミン(眠気など)
「止める」「眠(ミン)」
- ルル(風邪の症状)
「鎮める、病気を治す」のラテン語から。英語はLull
- ナロンA(頭痛など)
「明日はよくなるう」の「なるう」が「ナロン」に
- パブロン(風邪の症状)
「すべての」(Pan)と「気管支炎」(Bronchitis)



各製薬会社への取材から

作用のしくみや一般名から

- オプジーボ(がん)
「最適な」(optimal)と「PD-1」、一般名「Nivolumab」
- バファリン(頭痛など)
胃酸を弱める緩衝剤(バッファー)と「アスピリン」
- タミフル(インフルエンザ)
一般名「Oseltamivir」と「インフルエンザ」



とくになし

- バイアグラ(勃起不全)
- イレッサ(がん)
- グリベック(がん)

ちょっとした体調不良をなんとかしたい、しつかり病気と向き合いたい……。そんなとき頼りになるのが薬です。治療目的によってたくさん製品がありますが、なんでしょう名前になったの？と気になることが少なくありません。メーカーに聞いてみました。

まずはわかりやすい名称から。眠気止めの「トメルミン」(ライ

オン)は「止める」と「眠」から。同社には別に「ストップ」という下痢止めがあり、重ならないよう「ストップ」を使うことは避けたそうです。

風邪薬の「ルル」(第二三共ヘルスケア)は薬しそうな音の響きからではと予想しましたがそうではなく、「鎮める、病気を治す」という意味をもつラテン語に由来

□ □

いえそうです。

薬には作用の主体になる「有効成分」が含まれていて、商品名と区別して「一般名」と呼びます。一般名は世界保健機関(WHO)の国際的なルールを踏まえて決められますが、これを商品名に取り入れる製品も多くあります。

たとえば、抗がん剤「オプジーボ」(小野薬品工業)は、「最適な」(optimal)の「o p」と作用に関わるたんぱく質「PD-1」のPD、一般名「ニボルマブ」の表記に含まれる「i v o」を組み合わせています。抗インフルエンザ薬のタミフル(中外製薬)は、一般名のオセルタミビルに含まれる「t a m i」とインフルエンザの「f l u」を組み合わせて命名されました。

英城薬剤部長は医薬品の情報誌(電子版)で、主に薬剤師の読者を想定して、薬の名前の由来についての連載をしています。「名前の由来を知ることが、その薬剤がどんな働きをもつか、どういう作用なのかを認識するきっかけにもなる」と話します。

「勃起不全治療薬の「バイアグラ」は「活力」を意味する「vi gor」などが関係するという推測がありました。ファイザーによれば「由来はとくにない」そうです。同様に、がんの治療に使われるイレッサやグリベックなど、名前の由来がとくにないと言われる薬も少なくなく、語感などをもとに考案されているようです。

□ □

解熱鎮痛薬の「バファリン」(ライオン)もそう。胃酸を弱める緩衝剤(バッファー)と一般名「アスピリン」を合わせた名称です。ただ、アスピリンがドイツで最初に販売されたのは1899年と、まだWHOもないころです。バイエル薬品によると、名称は有効成分であるアセチルサリチル酸の頭文字の「A」、サリチル酸と化学構造が同じスピール酸からの「spir」、化合物の末尾によく使用される「in」が組み合わされてできたそうです。

名前が魅力的だと、その薬の印象もよくなります。メーカーによっては、薬の開発に一定のめどがついたタイミングなどで、いくつかの薬品名をあらかじめ商標登録しておき、同じ名前でも他社に先を越されないようにすることもあ

薬が市場に出るまでには、医薬品医療機器総合機構が効果や安全性だけでなく、名前についても審査します。厚生労働省のルールで、効き目を強調しすぎるなど誤解を招きそうな名前を付けることは認められません。(田村建二)